

意図理解を含む人の通信方式の解明と活用

ことばに代表される人の通信方式においてユニークなのは、直接目には見えない「意図」を介して他者と情報を伝え合うことであり、かつ、記号の形式的な操作の力を使いながら新しい意味を創造する点にあります。前者は情報伝達の道具としての言語、後者は思考の道具としての言語と言われています。

我々は、そんな人独自の通信方式を理解し、活用するための研究を進めています。一例として、人どうし、あるいは人と計算機で簡単な人工言語を作成する実験(図1)や、モニタに映し出される簡単な図形を介した他者とのインタラクション実験(図2)を行なっています。

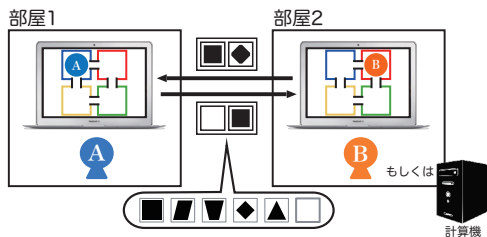


図1. 二者間で人工言語を作り出す実験

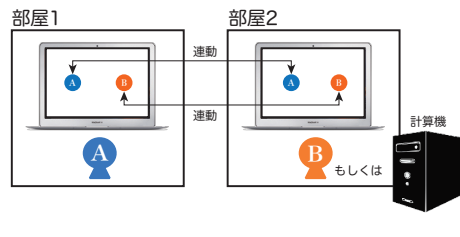


図2. 仮想オブジェクトを介した視覚的コミュニケーション実験

人工言語を作成する実験から得られる知見を基に、通信方式自体を相手と自律的に取り決める技術への発展を検討したいと考えています。図形のインタラクション実験では、人らしさを感じさせる動きを明らかにすることで、コミュニケーションできると思わせる人工物の動きのデザインが可能になるのではないかと考えています。



金野 武司 講師・博士(知識科学)

工学部 電子情報通信工学科
 武蔵工業大学電気電子工学科卒。同大学大学院工学研究科
 修士課程(電気工学専攻)修了。住友重機械工業(株)勤務。
 2008年北陸先端科学技術大学院大学博士課程(知識科学)
 修了。同大研究員、特任助教を経て、2016年本学講師就任。

研究者情報URL

<http://kitnet10.kanazawa-it.ac.jp/researcherdb/researcher/RBGACB.html>

Keyword

意図理解 / 言語 / コミュニケーション / 人工知性 / 認知科学